

参考人質疑

笠井委員

日本共産党の笠井亮です。本日は、中座されたお母様含めて五人の参考人の皆さん、本当にありがとうございました。

先ほど来の貴重なお話を伺いながら、私の父は新潟市の生まれで、祖父母は佐渡の生まれですけれども、三十年近くも一日千秋のお気持ちで頑張ってこられた拉致被害者の皆さん、家族の皆さんの思いを改めてしっかりと受けとめました。

こうやって御家族同士が連携されていらっしゃる姿を拝見して、一刻も早い解決のために、やはり政治が果たさなければいけない役割が本当に重いということを痛感いたしております。

まず、横田さん御夫妻に伺いたいんですが、この間、横田早紀江さんが訪米をされて、日本の国民、全世界の自由を愛する国民の総意で、怒っていると北朝鮮に態度を示していただきたいと訴えられました。また、横田滋さんは韓国を訪れられて、日韓での協力した取り組みということも訴えられました。そうしためぐみさんの御両親、そして拉致被害者家族の皆さん御自身の一つ一つの行動が、全世界に、拉致は許せない、全被害者をすぐ帰しなさいという強いメッセージを発信する大きな力になったと私は確信しております。

今、日本政府は、対話と圧力ということで、日朝平壤宣言、それから昨年九月の六カ国協議の共同声明の立場から、拉致問題での国際社会の支持と協力、連携を一層強固にして、あらゆる機会を通じて力強い外交努力を尽くすというふうにしていますが、私、このことがいよいよ大事になっていると思います。

そうした中で、日本が国連の人権理事国ということで選ばれて、そして北朝鮮の人権問題を積極的に提起していく場がつくられました。また、今国会が終わりますと、政府が一連の国際会議、さらには北朝鮮と国交のある国々をできるだけ訪問して訴えていくというふうになったわけですけれども、これらも、拉致被害者の皆さん、家族の皆さんの血のにじむような努力があってこそだと受けとめております。

そこで伺いたいんですが、この間、国際的な場で訴えられてきた横田御夫妻の体験、経験から、特に、日本政府に対して、どういうことに力点を置いて国際社会の理解と協力を求めているか、こういうことをぜひ政府としても大いに強調しているいろいろな場で言ってほしいということで、御意見を伺いたいと思うんですが、いかがでしょうか。

横田（早）参考人

非常に難しい御質問なんですが、やはりこうやって今までの活動の中でたくさんのすばらしい方々にもお目にかかりましたし、また反対に、これでいいのかしらと思うような方々にもお目にかかりました。いろいろな人間模様を見させていただきました。

その中でやはり、悪に対して本気であるかどうか、ブッシュさんにもすぐに言ったんですが、本当にどうにもならない悪というものがあって、それは皆人間の心の中のどこから出てくるものなんですけれども、そのどうにもならない悪に対して戦うのは、本当に大変な忍耐と苦しみと悲しみと絶望を抱えながら、私たちは長い間、たくさんの苦しんでいる人たちを助け出すためにきょうまで頑張ってきましたと言いました。

どうかブッシュさんも、本当にそのことを考えていただいて御支援くださいと言いましたら、そのとおりだということですので握手をして短い祈りをしてくださいましたけれども、そういった本当に悪に対してのはっきりとした姿勢が一人一人の心の中に、国民全部の心の中になれば、何か起きたときでも、善か悪か、こちらだ、ではやろうという、正しい方に向かってみんながかっと固まっていけ

る、そういうふうな状況にならなければ、どんなことが起きてもいい方向に行かないのではないかと思います。

笠井委員

ありがとうございました。崔桂月さんそれから金英子さん御家族の二十八年間は、いろいろな疑いもかけられた中での本当につらい期間だと察します。息子さんが亡くなったこととあきらめて、魂を祭る、引き揚げる祭祀も行う、魂の結婚式も行ったというふうに伺いました。

ところが、その金英男さんが生きていて、結婚してお孫さんまでいるということで、横田めぐみさんの夫の可能性が高いと初めて知られたときのお気持ちはいかばかりかというふうに察します。

こうやって拉致家族の皆さん同士が一層連携していかれる姿を目の当たりにしまして、北朝鮮による拉致という国家的な犯罪に対して改めて強く怒りを持つとともに、日韓の連携した取り組みがいよいよ重要になっているというふうに感じております。

私自身、去年秋、済州島で開かれた会議に行く機会があって、韓国の与野党の国会議員とも交流することがありましたが、この拉致問題でも韓国の各界の皆さんと大いに力を合わせていきたいと思っております。

きょうお話を伺いまして、お母さんが息子さんに、大好物が目玉焼きだったそうですが、これをまた一日も早くつくってあげられる日が来るようにしなければということで、意を強くしました。

そこで、金英子さんに、こうやって日本の国会に来られて、ほぼもう二時間近く質疑をさせていただいているわけですが、そうしたお話をされて、我々の質問も聞かれる中で、どんな気持ちを今お持ちになっていらっしゃるか、一言で結構ですが、伺えればと思います。

金参考人（通訳）

これまで隠されていたこと、そして表現することができなかったことをここに来て表現することができます。日本によってこうやって招かれてここに来ることができまして、これまでの苦しみ、痛みというものを表現することができております。皆様に感謝申し上げたいと思います。

そして、最後に一つ申し述べたいことがございます。私たち家族、拉致被害者の家族、心を一つにしてこれから頑張っていきたいと思います。私たちが家族と再会できるように、会えるように、皆さんのさらなる御関心、そしてお力添えをお願い申し上げたいと思います。

笠井委員

ありがとうございました。家族の皆さん、本当にお体を大切になさって、そして希望を持って頑張っていたきたいと思います。私たちも全力を挙げたいと思います。

ありがとうございます。